



危険極まる六十枚橋

本年度中には竣功か

十年度工事を未だに着手せず
関係部民から批難さる

石城郡草野村と夏井村の境にかゝる縣道六十枚橋の架け換えは夏井川改修の附帯工事として昨年五月工費五萬二千圓の設計で十年度工事に施行される筈に對し關係部の夏井及び草野村から千二百五十圓づゝ二千五百圓を寄附してゐるのに十一年度となつても着工されず殊に同橋は昨年の出水に流失後巾員の狭い貧弱な假橋（廣巾にせば自動車の交通に無理をなす事故防止の爲め）を架けたまふので施工當局の緩慢を批難されてゐるが右に就て改修所長の語るところによれば最初の設計を工費が高過ぎると云ふので五千

天氣回復と共に

漸く鯉の好漁か

本縣沖の五百海里に好漁場
是で濱も活氣づかう

本縣の鯉漁は極端な海候冷氣に漁期半月以上を遅延し甚だ振はなかつたが約一週前頃から漸く東南沖四百哩乃至五百哩に來遊好漁場を傳へられ目下天候が沖合ほど荒れてゐる爲め出漁思はずが近頃天候の回復と同時に好漁を迎はれるものと云はれてゐる同區の水溫は廿二度乃至廿三度

日刊日曜新聞
日刊一ヶ月廿五錢
郵税十五錢一部二錢
廣告料一行四十錢
發行所 牛谷政喜
印刷所 牛谷政喜
編集者 牛谷政喜
社址 新いわき新聞社

常識講座

ロマンスカーは帝都郊外電車にある車輦で座席が二人づゝ並ぶ様になつてゐる其れに氣の合つた二人が氣兼ねなしに話が出るので同座の兩人から或はロマンスも生れ様と云ふ謂

昨日の夜急行で

青沼汽車から轉落

平驛で全く奇蹟的な命拾ひ
負傷意外に軽く経過良好

平町長青沼大郎氏は舊平藩主安藤子爵家の令嗣の雅儀に舊藩士から平安會長として参列上京の歸途昨日午後十時二十三分平驛の急行で同驛着下車の際乗つてゐた機關車直せぬ限り三週間位を以て全治後の列車と機關車の連結位置より停車間近の線路内に振り落され後頭部に深き骨膜に達する裂傷の外腰部大腿部に打撲傷を負ひ苦悶の中から助けを呼んで驛員に救出直ちに擔荷を以て市原病院に入院應急

昨日の俵米共販

一俵で五・六錢落

引續いて落調を豫想される
倍増した平倉庫在米

石城郡販聯昨日の俵米共販一萬五千俵に達し郡内各驛には一般商人の氣乗ずく不活潑も相當の移入で補給されてゐるが結果左記の相場を取引されたが前日に比すれば通引して五・六錢を下落した向後千俵へ常月未まで六千俵の米に對して三千俵の出来であるから先月に比し倍量に近い在庫米であるなど商人持米の

平年に比し

二度低い

本縣沿岸の水溫
本縣に於ける本年の海漁は別項所載の鯉を初め殊に同漁中に漁れる一番高價なビン長鮪にも好漁事なく鱒の如きも例年より不漁である上に大敷漁業も甚だ振はず豊間村の同漁の如きは悲鳴を上げてゐるが茲四、五日來小名濱の大敷及び茨城縣大津の同漁にも相當の漁事を見られ様かと云はれ

四倉市場に於ける

本年の春蘭取扱高

二萬一千五百七二貫六十匁
十萬二千二百八圓一錢

四倉の春蘭市場は去る卅日の價格に於て三萬六千八百七十七圓取引を最終として閉場したが七十九錢（前年七一五二〇圓本年取扱高は二萬一千五百七十二貫六十匁）を増した同市場利

愛谷江開

水守が判るまで

後裔を探る史的根據を
得る迄の裏面の苦心者

茲に至つて水守と三森との關係が自ら判り水守治右門「白」は抑んでたもの、呼稱なる氏名は語呂が三森より水の頭字に使はれてゐるものが守るに通り治右門の名は多いので「監」には應はしきも其れを治するに合して治水のの考へられ何れにしても水意味ともなり小川江開鑿の恩に因んだものであらうことを人として其の氏名が生き通符察せられる而して治右門の奉行支配と云ふ職に列して傑出せる水利の功績を立てた崇稱でないかと想像され「白鷗」普昌寺（現在の良善寺）の末寺

水戸 久の夜
が主なるもので郡南郡多方向からの入荷殆んどなく北部では双葉郡大野村から若干這入

中等校醫
齒科醫師會
來る七日啓女校で
磐城高等女學校講堂に於て來る七日縣下中等學校齒科醫師會を開會同會諸般の仕事につして協議をなすと

東北興業株式會社並に
振興電力株式會社
資本金總額 各 金壹千圓
募集の額面金額 各 金五百圓
募集株數 各 拾萬株
申込株數單位 五株又は其の倍數
申込證據金 一株に付 金貳圓五拾錢
申込期間 自昭和十一年七月十四日
（但し期間中と雖も締切ることあるべし）
募入決定法 應募株數が募集株數を超過したる場合には設立委員に於て適宜割當決定す
第一回拂込金 金拾圓五拾錢
第一回株金拂込期間 昭和十一年八月二十五日
申込取扱銀行 株式會社七十七銀行平支店
電話二二一四番

今夜は北東の風、雨
明日は南の風、雨
（小名濱測候所）

